

『継続は尊い行為』 ～ 『はしるべき行程』と『見据える勇気』 ～

2024年9月5日 新渡戸稲造記念センターでの『がん哲学外来』の個人面談に赴いた。大変貴重な時となった。その後、順天堂大学に向かった。9月6日は、病理組織診断業務である。【『病理学』は『形態』、『起源』、『進展』などを追求する学問分野である。】&【病理組織診断は、『風貌を診て、心まで読む＝人生の根幹を追求する＝教育』でもある。顕微鏡観察は、『がん哲学＝癌細胞の病理と人間社会の病理＝生物学と人間社会』の原点である。病理学者が『がん哲学外来』を創設出来たのはここにある！】。その後『東久留米がん哲学外来・カフェ』代表：小林真弓氏から成美教育文化会館で『ラジオ番組の録音』を依頼された。

筆者は、アメリカのFox Chase Cancer CenterのKnudson博士(1922-2016)の下で『遺伝性腫瘍』を学んだ(1989-1991)。そして、『癌研究所所長：菅野晴夫(1925-2016)先生』に癌研究所実験病理部部長(1991-2004)に呼ばれ帰国した。原田明夫(1939-2017)検事総長とは、2000年に『新渡戸稲造(1862-1933)武士道100周年記念シンポ』、さらに『新渡戸稲造生誕140年』(2002年)、『新渡戸稲造没後70年』(2003年)、順天堂大学教授に就任(2003年)し2004年には、国連大学で『新渡戸稲造5000円札さようならシンポ』を企画したのが走馬灯のように駆け巡ってくる。

2007年から東久留米のインターナショナルスクール(CAJ)で、新渡戸稲造 著『武士道』、内村鑑三(1861-1930)著『代表的日本人』の読書会を始めた。【『良書を読み、有益な話を聞き、心の蔵を豊かにする』(新渡戸稲造)で、行動への意識の根源と原動力をもち、『はしるべき行程』と『見据える勇気』】である。

筆者は、2008年1月順天堂大学の病院の診察室で、無料の『がん哲学外来』を始めた。その年(2008年)の秋に『東久留米がん哲学外来・カフェ』をCAJで開始する機会が与えられた。【継続は、人間としての尊い行為である！すべての始まりは『人材』である！人生の大切な思い出、良き宝となろう！】を痛感する日々である。